

科 目：日本史

大問Ⅰについて（出題意図）

広く普遍的な知識を問うことを目的に、旧石器時代から平安時代まで出題範囲を設定した。各設問も政治・宗教・文化という分野にわたり受験生の知識を問う問題とし、標記の目的を達成するための作問を行った。

古代史の基本史料である「憲法十七条」「貧窮問答歌」「尾張国郡司百姓等解文」を題材にし、史料の基本用語や基本知識を問う問題を作成した。ひとえに受験生が基本的な学修を日々行っているかを問うことを主眼とした。

大問Ⅱについて（出題意図）

古代から中世にかけて藤沢市に存在していた大庭御厨をテーマにした出題と、鎌倉時代から室町時代にかけての農業技術の発展に関する問題である。前者は身近な歴史と日本史の様々な事象を関連づけて考えることが出来るかを意図したものであり、後者は学科を問わず、本学部の学生として知っておくべき基礎的な知識であるという意図からの出題である。

院政期から鎌倉幕府初期にかけての年表と、足利将軍家系図からの出題である。中世の政治や文化に関する基礎的な学力とともに、中世の歴史の流れを理解しているか問うことを意図した出題である。

大問Ⅲについて（出題意図）

〔文章A〕〔文章B〕を通じて、近世の前期から後期まで、政治・思想・文化の流れを総合的に理解できているかを問うた。

大問Ⅳについて（出題意図）

1つめは、日本の近現代史を理解するためには国際社会との関係・つながりが重要であることから、世界の国々との関係をふまえて日本近現代史の大きな流れを理解、把握できているかどうかを問うという点である。

2つめは、特定の時期・分野に偏ることなく、幕末から現代まで日本近現代史全体のなかで、政治・経済・文化など幅広く重要な出来事を理解、把握できているかどうかを問うという点である。

上記1・2の意図をもとに、世界各国との関係もふまえつつ日本近現代史上の重要な出来事についての理解度、把握度を総合的に問う問題として出題した。

戦後から現在に続く国際秩序形成の出発点となった同宣言に関する基本的知識を問うとともに、その前後の国内外的情勢についても問うている。

また、たんなる資料問題とならないように、同宣言が発せられた場所を地図上においても問うている。

与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」とその周辺に関する出題である。同詩の作者と発表された雑誌に関する出題は、きわめて一般な常識を問うている。また、同詩が発表された日露戦争時に関する基本的知識を問うとともに、講和条約締結後の国内外的情勢についても問うている。